

男女共同参画推進連携会議「次世代への働きかけ」チーム第1回会合議事概要

1. 日 時 : 平成28年3月16日(水) 10:00～12:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館6階623会議室
3. 議 題 :
 1. 開会
 2. コーディネーターの互選
 3. 今後のチーム活動について
 4. 男女共同参画に関する次世代への働きかけについて
 - ・横浜国立大学教授、男女共同参画会議計画策定専門調査会委員 工藤 由貴子氏
 - ・株式会社ソフィア研究所シニアコンサルタント、男女共同参画推進連携会議企画委員 大崎 麻子氏
 5. 意見交換
 6. 閉会

4. 出席者 :

(有識者議員)

飯田議員、石井議員、大崎議員、権藤議員、千代田議員、徳倉議員、羽入議員、林議員、山屋議員

(団体推薦議員)

金山議員、浅野議員、矢嶋議員、橋本議員、柿沼議員、糸数議員、川口議員、笠井議員、村岡議員、葛西議員、鳥澤議員、林議員、川口議員、岡内須美子氏(名取議員代理)、佐藤議員、山本議員

(外部有識者)

横浜国立大学教授、男女共同参画会議計画策定専門調査会委員 工藤 由貴子氏

(事務局)

武川 内閣府男女共同参画局長、華房 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、岡田 内閣府男女共同参画局総務課長、酒井 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

5. 議事概要

○冒頭、武川局長より挨拶があった。

○議題2について、チームコーディネーターの互選が行われ、羽入佐和子議員がコーディネーターに選出された。続いて、羽入コーディネーターより、徳倉康之議員が副コーディネーターに指名され、両者から挨拶があった。

○議題3について、資料2に基づき事務局より説明が行われた。今後概ね2年間のチームにおける活動内容について、以下のとおり意見があった。

- ・情報を発信していくことに加え、取組の成果の検証をあわせて行ってはどうか。
- 意見を踏まえて修正することで概ね了承された。修正についてはコーディネーター一任となった。

○議題4について、工藤氏より、資料3に基づき、国内における男女共同参画に関する次世代への働きかけに関して発表があった。続いて、資料4に基づき、大崎議員より国際的な男女共同参画に関する次世代への働きかけに関して発表があり、その後、両者の発表に関する質疑応答及び意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・政治や経済活動から若年層が排除されているという話があったが、特にどのような点で排除されていると感じているか。
- 政府の意思決定等に若年層の意見が反映されていないということもあるし、一方で若者自身が政治等に無関心ということもあると思う。
- 形式だけ若者の意見を聞く場を設けたとしても、それを真剣に政策に反映する方法があまり無く、実質的に関わっていない。最近、待機児童ブログが取り沙汰されているが、これまで人生における選択肢は政治と直結しているという認識を持っていた若者は少なかったと思う。政治への参画が重要と気付かせるための施策が求められる。若者や女性を優先する視点が政策や予算にもっと反映され、待機児童問題のようなムーブメントが拡大すれば、自分達が声を上げる意味があると考えられる若者が増えるかもしれない。
- 加えて、日本の場合、高齢者に対する施策も同様に当事者の意見が反映されていない。若者だけ切り出すというよりは、多様な主体がいる中で、若者にも注意を払うという全体的な視点が必要。また、政治や経済に対して自分の意見を持てるような準備をしていない若者に、いきなり意見を聞く場だけを設けても、適切な意見は聞けないと思う。やはり若い頃からの教育が重要であり、主体的な思考を養うことが必要かと思う。
- ・若者達は現在の社会を非常に現実的に捉えているというお話があったが、例えば自分達が直面する現状を打破しようという気持ちはないのだろうか。
- 今回紹介したデータでは、調査対象の特性もあるかもしれないが、あまりそのような傾向は見られなかった。彼らは現状を踏まえた（受け入れた）上で、その中で生きていく方法を考えているように思う。
- ・夏の参院選から選挙権年齢が18歳になるが、一方で被選挙権は無いままである。欧米等では選挙権と同様に被選挙権も18歳という国もあり、ドイツは16歳で選挙権がある。これらを実施するために生まれてからずっと independent と autonomy の意識形成が行われている。幼児から将来どのような職業生活をしていくかという基本教育がなされている一方、日本では自分の意思で何事も選択し責任を持つという教育に欠ける部分があるように思う。
- ・チーム活動についての提案だが、この会合に当事者（若者）がいないことが課題。SNS、フェイスブック、ツイッターなどを活用し、この場に出ている議論に若者を巻き込むような発信を積極的に行っていったらどうか。ジェンダーギャップ指数が1位のアイスランドでは、たとえ1位でも女性活躍・男女共同参画推進の必要性を発信し続けていくことが重要だと考えていると伺った。101位の日本は及ぶべくもないが、だからこそ積極的に進めていくべきではないか。
- ・全国的に見ると、まだまだ男女共同参画の意識が浸透していない地域も残念ながら見受けられるように思う。若者に対するアプローチとして、どのような切り口であれば訴求力があるのだろうか。
- ・若者を含め、男女共同参画を推進する上で、男性に対してはどのように働きかけていくべきか。
- ・意識調査で専業主婦指向が強いというお話があったが、個人的には彼らは共働きをしないと生きていけないということは十分理解していて、だからこそ一種の憧れとして専業主婦願望があるのではないかと思う。また、自身の母親像に影響を受ける女性も少なくないため、若者への働きかけとしては学校教育だけではなく、家庭の役割も重要であり、保護者への働きかけも大

切だと思う。

→一人ひとりのエンパワーメントは大前提だが、一方で社会を変えていきたいという想いを持つ若手リーダーに対する研修も重要。

→現在のダイバーシティ社会の中では、リーダーシップの在り方もまた多様ではないかと思う。

→若い人達をどうするかばかりではなく、自分達大人もどのように振る舞うかも重要な点だと思う。働きかけの切り口としては、例えばまちづくりのようなテーマで呼びかけると、男女が偏り無く集まるので、その中に男女共同参画の視点を取り入れるといったことが考えられる。また、エンパワーメントは、自己決定力を養い、若者全体の能力を底上げするために重要である。そして何より、楽しんでできるやり方で進めていくことが重要で、研修プログラムも参加型で行うなど、モチベーションを上げるための工夫が大切だと思う。一人一人が持っている独自性や多様性を十分活かすことが必要である。

○最後に事務局より、今後のスケジュールについて、第2回を新年度に開催する予定である旨の連絡を行った。

以 上